

北海学園大学(豊平校舎)医務室のご紹介

今回は、北海商科大学に引き続き、北海学園大学(豊平校舎)田中による医務室のご紹介です。

北海商科大学とは、経営母体は同じですが、学長も異なる別大学となります。本学は5学部を有し、2部(夜間部)も含め約8,500人強が在籍しており、工学部の学生のみ、2年生から山鼻校舎に異動します。豊平校舎・山鼻校舎共に、医務室には2部時間帯も含めて、医療職が1人常勤しておりますが、医師は常駐しておらず、小・中・高校の保健室と同様の形態です。

本学も、北海商科大学同様、地下鉄直結です。雪の多い冬季の通学を考えますと、地下鉄は雪の影響を受けないため、志望動機の一つとして「地下鉄直結」も、大きなポイントとなっているようです。

豊平校舎の医務室利用者数は、頻回に医務室を利用する学生の有無により開きがありますが、約1,000~1,400人/年といたところす。

施設も古く、ご紹介できるものもありませんので、医務室紹介というより、単なる「施設紹介」という色が濃くなりますが、ご了承ください。



地下鉄直結

「東豊線 学園前駅」で降り、まっすぐ階段・エスカレーターで地上へ上がると(写真左)、右手側に北海学園の敷地内への出入口(写真右)があります。また、左手側にはエレベーターが設置されています。

昨年、大学敷地への出入口が、写真右のように自動ドアとなり、身体の不自由な学生も、更に利用しやすくなりました。

このように、屋外に出ることなく、地下鉄を利用できるので、雨・風・雪の際には、大変助かります。



医務室の隣は、学生部

隣の学生部事務室とは、医務室の外に出ることなく、内ドア(2カ所)で、行き来できます。

写真左右の手前ドアの向こう側が学生部で、奥に見えているドアが、学生部事務室の2カ所の出入口です。

警備上の配慮もあり、医務室で万が一、学生が暴れ出入口を塞がれても、「逃げ道、他にもあり」という設計になっています。



(写真左)手指用アルコール消毒剤 (スプレータイプ)

色々な種類がありますが、ゲル状は、手がベタつくので他のタイプが良いと、教員より申し入れがありました。

個人の好みもあるでしょうが、鞆等の荷物を持ちながら使用する場合、より速乾性のあるスプレータイプの方が扱いやすいようです。よって、今使用しているゲル状タイプの予備が底をついた時には、このスプレータイプに変更予定です。

(写真右)服用水

今は、このようにボトルで服用水を購入されている医務室も多いかと思います。本学の場合、サーバーはレンタルではなく、購入としました。よって、サーバーメンテナンスの予算を計上し、年一回はサーバーが交換されています。因みに、お湯を沸かすこともできますが、節電のため、使用していません。



(写真左)加湿・空気清浄器

加湿は、水受皿の洗浄・乾燥等、機器内部の衛生管理に手間がかかるので、空気清浄機能のみ、時々稼働させています。

医務室利用者の香料やタバコの臭いが強かった時などに、利用しています。

(写真右)ベッド上の電燈

男性・女性用が、医務室の出入口ドアを挟んで左右の端に分けて、設置しています。

古い施設のため、ベッドの天井部分の電燈だけを消灯することができず、このように、蛍光管をはずしています。



(写真右)引き出し式網戸

写真左側に黒く見えるのが引き出し式の網戸です。蛇腹折りなので、使用しない時には、端に縮めて収納され、網戸は見えなくなります。昨年、窓枠改修の際に、設置してくれました。

「蜂や虫が入り込むことを防げる」と喜んでいたのですが、網戸が窓の内側にあることで一つ問題が。

2部の担当者が、夜に窓を閉めるためには、窓を閉める前に網戸を収納しなくてはならず、明るさを求めて網戸に付いた虫が、室内に入ってくる時が…。

付いた虫を払い落してから、網戸を閉めています。物事、表面だけ見て「良い、良い」なんて安易に言うものではないな…と、改めて思った次第です。



(写真上)暖房器

一世代前の暖房機器になりますが、本学では、現役で稼働中です。

毎年、ボイラーの職員が雇用され、温度調節にご尽力くださっていますが、広い施設故、調節に苦慮しているところです。



(写真下)電気式暖房器

通常の暖房器は、医務室で自由に稼働させることはできません。

よって、暖房開始前の寒い時期に対応するため、医務室で自由に稼働できる電気式暖房器が設置されています。これも古いタイプになります。

学生が衣類を汚し、借り洗った時等、急場しのぎの乾燥機代わりに使用する時もあります。



自動給茶機

この言葉自体、古き時代のようなのですが、きちんと意味が伝わり、今時の横文字より、ずっと雰囲気の良い言葉と思います。今は、わかったような気にさせてしまう横文字が多すぎるような気がします。

各事務室に設置され、給茶の仕事を廃止し、各自でお茶を入れることを目的の一つとして設置されたようです。パック式で、珈琲、紅茶、ホットチョコレート、緑茶、ジャスミン茶があり、珈琲・紅茶は多種あり、無料で提供されています。

この機器は、タンクによる貯水形式です。よって、衛生管理上、要チェック箇所としています。

新しい物を設置するのは喜ばしいことではありますが、維持管理についての検討が、一番肝心な部分です。

因みに、白い機器(上の写真の左側)は製氷機です。飲み物用の氷が、ボタン一つで落ちてくるので、打撲・捻挫等の処置の場合は、大いに利用させてもらっています。

本のご紹介

左から2冊は土居健郎さん、3冊目は甲田光雄さん、一番右側が帚木蓬生さんの書籍です。

土居健郎さんは、「甘えの構造」が有名ですが、他の書籍も蘊蓄があり、大変意味深い内容です。「甘えの構造」の初版は昭和48年ですが、平成19年に、増補普及版が発行されています。温故知新、発見の多い本ですので、是非、御一読頂ければ、と思います。

3冊目の甲田光雄さんは、少食のすすめで有名ですが、これは背骨のゆがみについての書籍です。新たな視点の示唆があり、これまた興味深い内容です。

4冊目は、森田療法の森田正馬の言葉を読み解いています。「はじめに」に書かれている森田正馬自身の個性の強さに、ちょっと、笑ってしまいました。



以上、細々しくご紹介させて頂きました。

北海道は3月でもまだ雪が積もっています。

しかし、4月下旬に一気に花々が咲き出す様は、まさに「春到来」で素晴らしいものがあります。

冬から春への変わり様は目を見張るものがありますが、北海道に長く滞在しないと見られない様であり、皆様にお伝えできないのが残念です。

機会がありましたら、ぜひ、北海道にいらしてください！